

～輝きの子育て～

口数を1/5に減らすと

……………楽しくなる

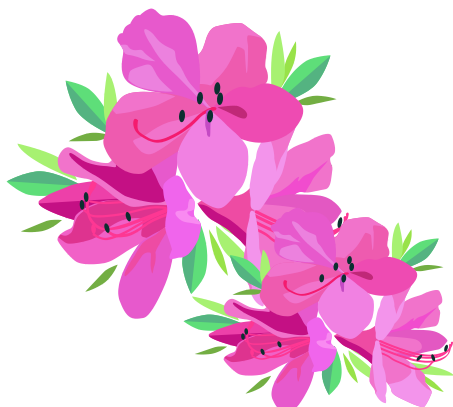
あるお母さんが茶目っ気たっぷりに、簡単で、それさえ守れば、すばらしい子育てができる秘訣はないかと問いかけてきたので、“少し虫がよすぎます”と笑いながら“あなたの口数をいまの1/5に減らせば、きっとよい効果が出る”と助言をしたことがあります。このお母さんは、これを実行に移されたのですが、いま非常によい形の親子関係を保っておられます。

人間の舌というものは、ともすれば動きすぎる傾向があり、言葉数をふやせば心が多く伝わるという錯覚も手伝って、親が子に無思慮な言葉づかいを多く出しています。親の使っている言葉を調べてみたら、“いけない、だめ、やめなさい”“こうしろ・ああしろ”といった禁止、命令、支配型の相手に不快を作る言葉が、全体の4/5を占め“よかった、うれしい、すばらしい、がんばれ”といった受容、承認、感動型の、相手が快感を覚える言葉が1/5しかなかった調査さえあります。

親と子の接触不良の大部分は、親の言葉づかいの荒さ、冷たさ、粘っこさ、などにあり、しかも、この種の言葉が多すぎることで決定的な原因となって子どもを歪ませているのです。

口数を1/5に減らすというのは、荒く、冷たく、粘っこい、禁止、命令、支配型の言葉を極力少なくし、柔かく、温かく、さわやかな受容、承認、感動型の言葉を極力多く出すようにすることで、このような言葉づかいをするお母さんの前にいる子どもは、“お母さんは私の考えに同意し認めていてくれる、喜んでいてくれる、驚いていてくれる、感動してくれている”と心から満足をし、“もっとがんばろう”と楽しいやる気と自信にあふれて、行動を広げ、経験をふやし、技能までも伸ばしていくに違いありません。

言葉をふやせば心が多く伝わると思えるのは間違いです。心を込めた大事な言葉だけを残し、余計な飾り言葉や説明言葉を削り落とすようにすると、相手は、その少ない言葉をかみしめて、話す人の心を理解していくのです。



「楽しい育児 両親教育研究会編」より